健康格差の解決プログラム促進事業 【目的とこれまでの取組み】

事業の目的

■ 府民の健康増進・医療費適正化を推進し、健康増進計画に定める目標を着実に達成していくためには、住民に最も身近な市町村(国保)において、効果的・効率的な取組みを進めることが必要。国保保険者である市町村の取組みを促進するため、エビデンスに基づいた好事例を創出し、その横展開（好事例の情報共有やインセンティブの付与による誘導）を図っていくことが重要。

■ そのため、健康分野における府内市町村の健康格差の要因と考えられる「特定健診」「保健指導」の向上と、介護が必要となる原因の一つである「フレイル」の予防に着目し、これら要因の見える化を通じて、格差の縮小に向けた実証モデル事業を分野別に実施してきた。

■ 開発した各プログラムの府内市町村への展開、或いは展開に向けた支援を行うとともに、従来型の取組みとは異なる切り口による事業展開により、府民の健康指標及び健康行動の改善をめざす。

これまでの取組み

分野	平成30年度～令和元年度	令和２年度	令和３年度
特定健診	**【H30】かかりつけ医と連携した勧奨** ・モデル市受診率2.8%Up ・継続受診を促進する取組み手法確立 **【R1】歯科専門職からの勧奨** ・「歯科診療所」受診者に受診勧奨し、未受診者のうち54.1%が受診の意向。その後追跡できた者のうち10.9%が受診	**効果的な勧奨手法・内容等の調査検討** ・層別化した対象への最適な受診勧奨方法を提案するツールの作成のためのデータベースを整備	**市町村をフィールドとした受診勧奨の実践** ・Ｒ２に構築したデータベースをもとに、モデル市町村をフィールドとして受診勧奨を実践
保健指導	**効率的・効果的な保健指導** ・モデル７市町村で取組 ・保健師等に対する技術研修 ・ツール等(構造図、経年表、保健指導資料集、優先度判定ツール等)を活用した効果的なプログラムの開発	**効率的・効果的な保健指導** ・モデル７市町村で保健指導プログラムの実践に基づいた取組の継続（実施率を測定） ・質の高い保健指導実践のための研修	**保健指導プログラムの効果検証と保健指導の質の向上** ・保健指導プログラムの活用継続と機能向上 ・保健指導の質の向上を図る研修会を引き続き実施
フレイル(プレフレイル対策)	**働く世代からのフレイル予防** ・郵送調査によるフレイル実態把握 ・フレイル予防プログラムの作成とモデル実施 ・フレイル保健指導 ・啓発	**働く世代からのフレイル予防** ・プログラムの導入支援と導入支援ツールの作成とあわせ、市町村の研修や府民への啓発を実施	**フレイル予防プログラムの普及・充実** ・フレイル予防プログラムの導入支援(横展開) ・市町村に対する研修 ・認知度向上のための啓発 ・導入支援ツールの実装

健康格差の解決プログラム促進事業（特定健診）

○健康寿命の延伸、市町村内の健康格差の縮小を図るため、大学に委託し、AIを活用した受診率向上対策支援ツールを開発中。令和２年度は、データを用いて健康診断受診を予測するAIモデルを構築するための特徴量を分析。

○令和3年度はその分析結果を活用し、モデル市町村の過去の健診受診歴のデータを基に、大学からの効果的な受診勧奨の提案を受け、モデル市町村による試行実施を行う予定。

大学

AI等を活用した受診勧奨をサポート

AI等を活用し、受診対象者の関連要因の解析結果から効果的な受診勧奨を提案する

モデル市町村での実施と結果の評価検証

実施内容（メッセージや各種広報物）とその結果から効果的な受診勧奨方法について検証

市町村

モデル市町村での受診勧奨の実施

・過去の健診受診歴のデータを大学へ提供する。
・大学より対象者に応じた効果的な受診勧奨のアドバイスを受ける。
・対象者に応じた広報物を作成し、受診勧奨を実施する。

関連要因の抽出・データ分析

対象者に応じたメッセージや各種媒体を活用した受診勧奨

アプローチⒶ　アプローチⒷ　アプローチⒸ

（例）

R3

① モデル市町村の決定 ▶ ② モデル市町村の健診受診対象者のデータ分析 ▶ ③ 対象者に応じた受診勧奨方法のアドバイス

▶ ④ モデル市町村による対象者に応じたメッセージや媒体の検討・作成 ▶ ⑤ モデル市町村で受診勧奨の実施 ▶ ⑥評価検証

健康格差の解決プログラム促進事業（保健指導）

〇保健指導実施率向上に向けて、保健指導の技術力を向上し、標準化・均一化を図るため、「健康行動化モデル」に基づいた保健指導プログラムの開発と、それに必要な4つのツールと保健指導集を作成。
〇令和３年度は、大学への委託により作成した大阪府版保健指導プログラム（更新版）を活用し、モデル市町村で、ハイリスク者の行動変容につながる効率的・効果的な保健指導を実施する。
〇保健指導プログラムの検証結果の解析と評価を通じて、質の高い保健指導のための保健指導プログラム、保健指導自動提案ツールの開発、各種ツールの改修を行う。
○保健指導従事者の更なるスキルアップを目指し、研修会を開催する。

優先度判定ツールによる保健指導の受診勧奨

＋

健康行動化モデルを活用した保健指導の展開

身体のメカニズムの理解

①健診結果から、対象者が生活習慣病のリスクを捉えられるよう伝える

②**重症化したら自分の身体がどのような状態になってしまうのか。その変化で、**家族などに**どのような影響がでるか**、認識・実感できるよう働きかける

③選択すべき行動によって、重症化を回避できることに気づくように伝える

行動変容に向けた具体的支援

④改善のための行動変容をすることの障害となるものを具体的にイメージできるようにする

⑤対象者が行動変容できると感じられるように、対象者とともに生活改善の具体的方法を考える

Ｒ３（2021）予定

●モデル市町村による大阪版保健指導プログラム(更新版）の実施

●保健指導自動提案ツールの開発
●ツールの精度改善
●保健指導スキルアップ研修

→ 大阪版保健指導プログラムの完成

健康格差の解決プログラム促進事業（保健指導）

大阪版保健指導プログラム

「健康行動化モデル」を活用した効率的・効果的な保健指導を実施し、保健指導の質の「標準化・均一化」特定保健指導実施率の向上を図る。保健指導プログラムは下記の①～⑤で構成される。

①保健指導優先度判定ツール
　特定保健指導対象者から優先的に介入することが望ましい対象者を選定。

脳卒中、虚血性心疾患、糖尿病合併症を発症する恐れがある人

②健診結果帳票作成ツール
　健診結果を読み解き、リスクをアセスメントするために健診結果構造図を作成。

③保健指導リスク評価ツール
　対象者の最も重要な健康課題、リスク因子を検討し保健指導計画を立案。

④保健指導資料集
　対象者に体のメカニズムと代謝異常の理解を促進させるための保健指導資料集。

⑤保健指導記録表入力ツール
　指導内容を記録し保健指導内容の評価を実施。

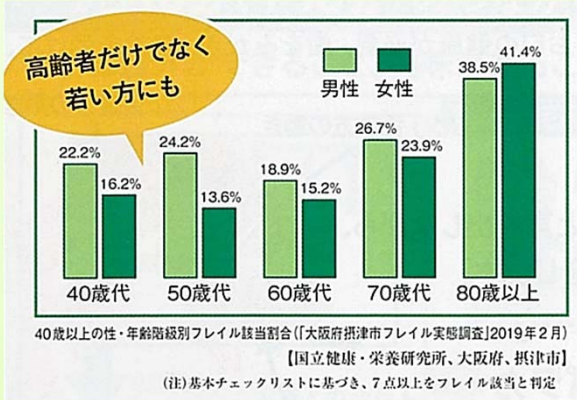
【研修会予定】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全体研修						全体研修①					全体研修②	
保健指導プログラム研修（モデル市町村）	市町村調整			研修会① ・健康行動化モデルを用いた保健指導について ・ツールの活用について ・メカニズムの理解			研修会② ・事例の読み解き ・保健指導記録の書き方			研修会③ ・事例検討 ・生活習慣病の理解 ・集団データの読み解き		

「健康格差」の解決プログラム促進事業（働く世代からのフレイル予防）

市町村の健康格差（健康寿命の差）の縮小に向けて、フレイル（高齢になって心身の活力が落ちた状態）を予防するため、市町村との連携のもと、筋力低下が始まる前（働く世代）から実践できる生活習慣（運動・食生活）改善プログラムの開発・効果検証を実施し、取組みモデルを展開

働く世代でもフレイルに該当する者が男性約2割、女性で約1割存在



40歳以上の性・年齢階級別フレイル該当割合（「大阪府摂津市フレイル実態調査」2019年2月）
【国立健康・栄養研究所、大阪府、摂津市】
（注）基本チェックリストに基づき、7点以上をフレイル該当と判定

「フレイル」を知って、早くから予防に取り組むことが大切

寝屋川市での事例

R3.2.24 重症化予防教室にフレイルチェック（フレイル問診と身体組成の計測）を導入

フレイル複写式質問紙の記入

身体組成の計測

保健師によるフレイルチェック結果の説明

特定健診などの既存事業

＋

プレフレイルチェック

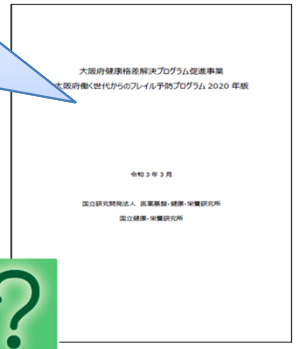
フレイル問診＋体組成計での計測

フレイル保健指導

フレイルチェックツール

フレイル複写式質問紙

働く世代からのフレイル予防プログラム



改訂版リーフレット

R3 働く世代からのフレイル予防のモデル事業

【目的】・フレイル複写式質問紙（以下複写式質問紙）もしくはオフラインツールでフレイル問診と身体組成の測定を行い、
フレイルに関する自分の健康状態を知る
・実際に受診することで、フレイルを身近なものとしてとらえる
・複写式質問紙、フレイルリーフレットの内容と身体組成の測定の結果から「フレイル」を知ってもらう

パターン1：特定健診など健診の場で

【内容】
・特定健診など既存の健診にフレイルチェックを同時開催
・複写式質問紙でのフレイル問診と体組成計を用いて体重、筋量、体脂肪量を測定
・測定結果を参加者にフィードバック
・フレイルに該当した人にフレイル保健指導

受付

特定健診などの問診票
＋
複写式質問紙の記入（25問）

身長・体重・血圧測定
＋
体組成計で身体組成の測定

保健指導
＋
フレイル保健指導
①複写式質問紙結果、②身体組成の測定結果、
③リーフレットの配付

パターン2：健康教室で

【内容】
・健康教室・骨粗しょう症教室など既存の事業にフレイル測定を同時実施、もしくは「フレイル予防教室」として単独で実施
・複写式質問紙でのフレイル問診と体組成計を用いて体重、筋量、体脂肪量を測定
・測定結果を参加者にフィードバック　・フレイル保健指導(講話)

受付

複写式質問紙の記入（25問）

身長・体重・血圧測定
＋
体組成計で身体組成の測定

①複写式質問紙結果、②身体組成の測定結果
③リーフレットの配付
＋
フレイルの講話

・複写式質問紙とリーフレットはこちらから提供します
・体組成計がない場合はこちらから貸し出しします
・ご希望に応じ、健栄研のアドバイスも受けることができます
ご相談やご要望がありましたら 健康づくり課
企画・データヘルス推進グループまでご連絡ください

パターン3：健康まつりなどのイベントで

【内容】
・健康まつりなどのイベントにフレイル測定を同時開催
・複写式質問紙での問診と体組成計を用いて体重、筋量、体脂肪量を測定
・測定結果を参加者にフィードバック